

●寒い冬、公園の主役は元気な水鳥たち

新年を迎え、いよいよ寒さも厳しくなってきました。外へ出るのが億劫な季節ですが、水辺の鳥たちは元気でかわいい姿を見せてくれます。愛らしい姿を探してみてください。

●大きくて迫力のあるサギ



アオサギ



ダイサギ

■公園で一番見かけるのはアオサギで、黄色のくちばしに灰色がかった模様が特徴。大きいもので全長 98cm、翼開長 170cm にもなる日本最大級のサギです。一方で全身が白く、一般的にシラサギと一括りに呼ばれているものにも種類があり、大きさで大中小が頭に付きます。公園でよく見かけるのはダイサギだと思われそうですが、亜種もいるそうです。意外と警戒心が薄く、カモなどに比べて近づくことができるため、写真も撮りやすいです。こちらが気が付かないで歩いていて、水路などから飛び立つと、大きさと羽音にビックリすることがあります(笑)

●仲間がたくさん、お馴染みのカモたち

■カモと言えばポピュラーなのはカルガモでしょうか。留鳥のため一年を通してよく見かけます。その他にも越冬のためこの季節にやってくるカモの仲間がいます。いずれもオスの模様に特徴がありますが、緑の顔が特徴のマガモはわかりやすいですね。ちなみに食用の鴨肉はこのマガモです。一回り小さいコガモも、やはり顔に特徴があります。一緒に行動していることも多いので、ぜひ探してみてください。



マガモ



コガモ

●泳ぎも潜りも得意なおオバン

■秋頃になるとやってくるおオバン。群れでよく見かけます。頭をクイクイッと前後させて泳ぎ、色味は地味ですが、実物を見ると、なかなか愛嬌のある姿をしています。



おオバン

●カワウは駆除してカラスは保護！？



カワウ

公園でも見かける魚捕り上手なカワウ。近年では個体数の増加による環境破壊や漁業被害等の問題から、鳥獣保護法の狩猟鳥となり、可能な期間、地域においては許可なく捕獲可となりました。一方で迷惑なカラスは、この法律により守られたままです。※駆除には申請、許可が必要。



●鳥にちなんだ公園の地名

■古河公方公園内のエリアにはかつての字名、故事、歴史などにちなんだ地名がついています。鳥に由来するものでは、カイツブリの別名から取られた「もぐっちょの入江」や、復元した御所沼に水鶏の再来を願って付けられた「水鶏(クイナ)坂」がありますよ。石碑が立っていますので探してみてください。

●たくさん花をつけるヒイラギナンテン

■最後に一つ、常緑樹のヒイラギナンテンのご紹介。ヒイラギのようなとげのある葉に、ナンテンのように実が付きますが色は赤ではなく青い実です。公園では12月のどろんこクラブ「クリスマスリース作り」で、葉を使いました。写真のように小さく黄色い花をたくさんつけます。花のないこの時期に、目を楽しませてくれる貴重な存在です。(地図☆印の場所)



ヒイラギナンテン



●1年で最も寒いこの時期、春が待ち遠しいですね。てくてく情報、次号もお楽しみに！

●寒い中にも少しずつ春の足音・・・

暖冬ということもあり、御所沼の水もいつもより凍結している日が少ないように感じる今年の冬。さっぱりと静かな公園の中に、鳥たちや植物の息づかいが感じられます。

○ 水辺や森、いろいろな種類の鳥たちを探してみましょう

■先月号でも紹介したカモの仲間で、今年は例年見かけない「キンクロハジロ」がいました。カルガモとは異なり、潜水が得意で貝などが主食です。飛び立つときには水面を助走するそうなので、ぜひその姿を見てみたいですね。

■公方様の森を歩いていると、「ココココ・・・」と小気味よい音が響きます。キツツキの仲間「コゲラ」が木をつつくドラミングの音です。その速さは1秒に約20回で、衝撃は1回毎に時速25kmで壁に頭をぶつける程だそうです。体の仕組みで上手く頭を保護しているとのこと。動物ってスゴイですね。



キンクロハジロ



コゲラ



①ロウバイ

○ 冬から早春のお楽しみ

■公園では1月頃から咲き始める「①ロウバイ」。数は多くありませんが、半透明な淡い黄色の花に加えて、良い香りも特徴です。

■②御所の梅林には、紅白のウメが咲き始めています。まだ植えて2、3年の若木ですので、見ごたえはまだまだですが、早春の公園を彩ってくれています。赤色のものは紅梅と大盃、白色は白加賀と南高梅という種類です。一口にウメと言っても花の色や形、花びらの付き方などで300種類以上あると言われています。



②ウメ



●中に穴が！大丈夫！？

■こちらは「③ハコネウツギ（箱根空木）」という落葉低木です。管理のために剪定していますが、枝を見るとご覧の様に空洞になっています。これは異常ではなく、この種の特徴です。この様子から「空ろ木」が転じて「空木」となったそうです。花期は5～6月頃で、咲き始めは白で徐々にピンク、紅と色が変化していきます。



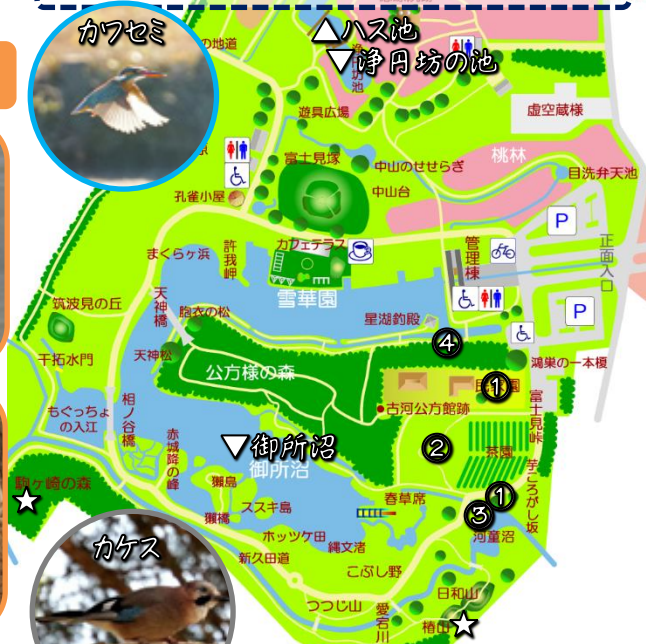
③ハコネウツギ

●冬こそシャッターチャンス！？

■実は1年中公園で見られるカワセミ。冬の水面を飛ぶ鮮やかな姿は必見です。ぜひ撮影してみてください。



カワセミ

△ハス池
▽静月坊の池

カケス

●こんな鳥にも会えるかも

■他の鳥の声やチェーンソーなどの音マネが得意なカケス。通常は「ジェー、ジェー」と鳴くそうで、そこから「ユーラシアン・ジェイ」という英語名がついています。公園南側の☆日和山から駒ヶ崎の森にかけて、運がよければ、見られますよ。

○ いろんなパワーがある！？ニフトコ

■新芽が出始めた「④ニフトコ」。漢字では接骨木と書き、枝や幹を煎じて骨折治療の際に湿布薬として使ったことからその名がついたそうです。その他、葉を生薬として利用したり、魔よけとして飾るなど古くから日本だけでなく世界中で様々な利用がされたようです。

また、ハリーポッターシリーズでは、最強の杖として「ニフトコの杖（エルダー・ワンド）」が登場します。やっぱりなにか不思議な力が宿っているのかもしれないね。



④ニフトコ

●寒さのピークは過ぎたようですが、春が待ち遠しいですね。てくてく情報、次号もお楽しみに！

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索

●花桃、桜など、春の花をご紹介します

今年は暖冬のため、公園の花も軒並み例年より早い開花となっています。早めの春を満喫しましょう！

○例年より2週間ほど早い開花となった「花桃」

●新型コロナウイルスの影響で、残念ながら「古河桃まつり」は中止となってしまいましたが、花桃は順調すぎるぐらいに元気に咲いています。

公園には主に5種類の花桃がありますが、一番先に見頃を迎えるのは「寒白」です。園内に数本ですが、純白の花が良く目立ちます。次いで、全体の約8割を占める「矢口」、低木の寿星桃、1本の木に紅白の花がせめぎ合う「源平」、最後に菊の花に似た花弁を持つ「菊桃」へと続いていきます。



●菊桃
(菊に似た花)



▲源平
(紅白の花)

●花の場所は大体の目安です。印の場所以外にもありますので、てくてく探してみてください。



コブシ



④ヤマザクラ



③ヒガンザクラ



②カンヒザクラ

○園内を彩るたくさんの花

●春の公園は、その他の樹木、草花もたくさん花を咲かせます。白い花が見事なコブシは、中山台ほか園内に多くあります。桃林から徳源院跡への園路沿い、白い釣り鐘型のかわいい花を付けているのは「スノーフレーク」です。桃林の北東と民家園に1本ずつある「スモモ」は、白く可憐な花をたくさん咲かせます。民家園を内側から囲む「乙女椿」は、スイーツのようなピンクの花がキレイです。



⑦スモモ



⑥乙女椿



⑤スノーフレーク

●濃いピンクの黒川矢口

・矢口よりも色の濃いものは黒川矢口という種類です。



★寿星桃

(低木)



黒川矢口

○「桜」も綺麗です

●実は桜も多くあります。お馴染みの「ソメイヨシノ」は駐車場や管理棟前、芝生広場西側等に綺麗に並びます。この機会に公園南エリアにも是非足を運んでください。数は多くありませんが、早咲きのカンヒザクラやヒガンザクラ、花と葉が同時に開くヤマザクラなども見られます。賑やかな北側に比べ、同じ公園とは思えないほど、のんびりと時間が流れています。



オオアラセイトウ

○いろんな名前を持つ野草

●春にあざやかな花を咲かせる「オオアラセイトウ」。中国原産で、三国志に登場する諸葛孔明

が広めた伝説があることから「シヨカツサイ」という別名もあります。また一般的には広く「ムラサキハナナ」とも呼ばれています。菜の花と同じアブラナ属の植物で、種子からはアブラナと同様に油も採取できるそうです。虚空蔵様前の花桃の足元や、茶畑東側などに群生していて、とても綺麗ですよ。

●あざやかな花に囲まれ、心地よい春の公園。てくてく歩いて春を感じてください！

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索

○たくさんの植物が彩る公園の春

開花の早かった花桃、桜も終わりを迎え、公園には新たな春が訪れています。

○これらもサクラの仲間です

●有名なソメイヨシノ以外に、①イヌザクラや②ウワミズザクラといった種類があるのをご存知ですか。



②ウワミズザクラ

どちらも高木で、花は白いブラシ状の花序（花の集まり）を付け、とてもよく似ています。花序が付く枝に葉も付くのがウワミズザクラです。ソメイヨシノとは見た目が全く異なりますが、同じバラ科サクラ属の植物です。高い位置に咲くので、見上げて探してください。



①イヌザクラ

○薄紅色のハナミズキは白色もあります

●歌でも馴染みの③ハナミズキ。市内の街路樹としても多く見かけますが、公園では薄紅色のものが孔雀小屋前の小さな池の裏に、白色のものが中山台で咲きます。実はこの花弁に見える部分は、総苞と言って葉が花全体を包むように変形したものなんだそうです。



③ハナミズキ



④タチツボスミレ



⑤アリアケスミレ

○スミレ属の花たち

●公園内にはスミレの仲間がいくつか見られます。林に普通に見られる④タチツボスミレは、ハート形の葉と薄紫の花が特徴です。白い花に紫の筋が入る⑤アリアケスミレは日当たりのよい湿地を好むスミレ。茨城では準絶滅危惧種に指定されています。その他のスミレとして、マルバスミレやツボスミレなども見ることができますが、どれも小さくて見た目もよく似ています。

○なんとも不思議なウラシマソウ

●サトイモ科ナンテンショウ属の⑧ウラシマソウ。仏炎苞と呼ばれる大型の苞の中に小さな花が集まった肉穂花序を付け、この先端が長く伸びるため、釣り糸に見えたことが名前の由来とされています。またこの種を含むナンテンショウ属は性転換植物として知られ、小型の個体が雄性となって花序に雄花を、大型の個体が雌性となり雌花を形成するそうです。なんとも不思議な植物ですね。



⑧ウラシマソウ

○ほかにも野草などいろいろ



⑥ニリンソウ



⑦ウグイスカグラ

●1本の茎から2輪ずつ花茎が伸びて花を付けることからその名が付いた⑥ニリンソウ。根茎は漢方薬、若葉は山菜として食用とされる一方で、トリカブトの若葉に似ているのでご注意ください。●ラッパ型のピンクの花を付ける落葉低木⑦ウグイスカグラ。初夏には赤く甘い実を付けます。鶯がなく頃に開花し、名前の由来も諸説ありますが、いずれも鶯にちなんだものです。

●覗いてみましょう「野草園」

公園ボランティア「もりもりクラブ」さんが管理している野草園には、季節の野草がたくさんです。名札も付いていますので、ぜひ覗いてみてください。

○春の公園は何気ない景色の中にたくさん発見があります。てくてく探してみましょう！

●木々の青さが一段と増し、緑あざやか

○木々が花を咲かせています

●駐車場では①ベニバナトチノキのピンクがきれいです。同じ仲間では白色の花が咲く②トチノキは、樹高が高く栗に似た実（種子）は栃餅などに利用されることでもお馴染みですね。トチノキよりもさらに大きく、石垣沿いに並ぶ③ユリノキも、この時期にかわいい花を付けます。ちょっと見上げて探してみましょう。



③ユリノキ



②トチノキ



①ベニバナトチノキ



④キリ

○実は花も美しいキリ

●高級タンスなどの木材としてお馴染みのキリもこの時期に花を咲かせる樹木です。公園内では、南側エリア展望デッキの近くに釣り鐘型で薄紫色の花をたくさんつけています。



④キリ

○鳥たちも繁殖期を迎え活発に

●この時期は鳥たちも巣作りのため、活発です。今年見かけた「ツミ」は、日本最小のタカで雀鷹と書きます。写真はメスで、30 cm程の体長に眼は黄色。オスはやや小さく25 cmほどで、翼の付け根がオレンジ色、眼が赤いのが特徴です。比較的身近な場所でも繁殖するようなので、毎年見られるようになるかもしれませんね。

公園の中で一番耳にするのは、シジュウカラの鳴き声でしょうか。高音で「ツピー、ツピー」と響き渡るその鳴き声は20種類ほどあり、京都大学の研究グループによれば、人以外の動物で唯一、異なる意味を持つ鳴き声を文法に従って組み合わせ、文章をつくることのできるそうです。同種、多種の鳴き声を合成したもので、文法が正しければ理解することができ、順序が逆の場合は文法の違いを認識し行動に現れるそうです。普段の何気ない鳴き声も、何を言っているか想像して聞くと楽しいですね。



ツミ



シジュウカラ

●野草の話（ムラサキツメクサ）

シロツメクサと同じジャクジソウ属のムラサキツメクサ。一般にアカツメクサとも呼ばれ、シロツメクサとの違いは色だけでなく、草丈が20 cm以上でスッと立っているのが特徴です。花が白色に変異した種類はセッカツメクサ（雪華詰草）と呼ばれるそうで、古河市民としては親しみを覚えます。（※）また別名シロバナアカツメクサと呼ぶそうですが、こうなると白なのか赤なのかややこしいですね（笑）

（※補足：ちょっと脱線「雪華」の話）

「雪の殿様」として知られる古河藩主土井利位が雪の結晶を「雪華」と名付け、20年に渡り研究し「雪華図説」を刊行。雪の結晶デザインは広く伝わり、工芸品、着物などへと取り入れられました。特に古河では街灯や歩道など街のあちこちで雪華模様が見られ、なじみ深いものになっています。公園の中にも雪華図説にちなんで「雪華園」と名付けられた庭園があるんですよ。（マップ⑥）



ムラサキツメクサ

●新型コロナ感染防止対策に注意しつつ、公園を上手に利用してリフレッシュしてください。

【発行】（一財）古河市地域振興公社 古河公方公園（古河総合公園） 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索

○ハス以外にもいろいろな花が咲くこの時期

うっとおしい季節がやってきましたが、この時期は花もいろいろ。たくさんの花で気分だけでもさわやかに。

○公園の夏の風物詩「大賀ハス」

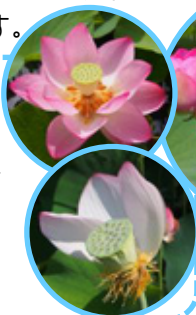
●ハナモモに次ぐ公園の名物①大賀ハス。千葉市から1975年にいただいた2本の根に始まり、現在は3000㎡のハス池一面に咲き誇るまでになりました。1950年、千葉市で約二千年前の地層から発掘、発芽したため、一般には「古代ハス」と呼ばれます。大賀ハスという名は、発掘にあたった大賀一郎博士から取られたものです。



①大賀ハス

○ハスの花の寿命は4日間

・1日目はとっくり型、2日目はお椀型に満開、3日目は色があせてきて閉じて半開のまま、4日目には散ってしまいます。お昼には概ね閉じてしまうので、9時頃までに見るのがオススメです。



○ハスと一緒に楽しめるヘメロカリス

1つの花茎からたくさんの花を咲かせ、長い期間楽しめる②ヘメロカリス。ニッコウキスゲやヤブカンゾウと同じ仲間です。ちなみに公方公園のヘメロカリスは、ネーブルパークから株分けして増やしたものですよ。



②ヘメロカリス

○スケールの大きなタイサンボク

●孔雀小屋からハス池へ向かう角にそびえ立つ④タイサンボク。樹高は20mにもなり、ハスにも負けない大きく白い花をたくさん咲かせます。花は優しい香りも特徴で、一般に「マグノリア」という名前で香水などの香り成分として利用されています。ちなみにマグノリアとはモクレン属の学名で、園芸品種の総称としても使われます。



④タイサンボク

○夜に眠る？ネムノキ

●糸状の繊細で美しい花を咲かせるネムノキ。夜になると、葉が合わさって閉じる就眠運動を行うため、眠っているように見えることが名前の由来です。



⑤ネムノキ

庭木や街路樹としてはもちろん、塩害に強いので海岸線の防風林などにも利用されるほか、木材としての利用、花や樹皮を生薬として用いるなど、意外と人間との係わりが深い樹木でもあります。

○梅雨の定番「アジサイ」

・旧正門付近を中心に、園内の各所にて一般的な③アジサイと原種のガクアジサイが見られますよ。



③アジサイ



ガクアジサイ

○美しいニワトコの実

●以前にも紹介した低木の⑥ニワトコは、この時期に綺麗な赤い実を付けています。焼酎につけて果実酒にも利用されるそうです。



⑥ニワトコ

○ご存知ですか？コシアキトンボ

・トンボといえば、シオカラトンボやギンヤンマ、アキアカネなどがポピュラーですが、水辺の多い公方公園では、コシアキトンボがたくさん見られます。腹部が白く空いているように見えることからその名が付いていますが、地方によっては白い部分を電灯に見立てて「電気トンボ」と呼ぶそうです。視点の違いで呼び名が変わるのも面白いですね。



コシアキトンボ

○蒸し暑い時期ですが、この時期ならではの自然に触れてリフレッシュしましょう！

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索

●散策は涼しい場所を選んで無理をせずに。

長い梅雨が明け、真夏がやってきました。木陰や水辺など、涼しい場所を選んで公園を利用してください。

●中世の名残をとどめる公方様の森

●周囲を沼に囲まれた①「公方様の森」は、イヌシデやコナラなどの木々が茂り、夏は涼しく昆虫もたくさん。かつてこの地には、古河公方やその子孫の御座所、別荘として使われた「古河公方館（鴻巣御所）」があり、②「古河公方館跡」として県指定文化財となっています。

余裕があれば③「徳源院跡」にも足を運んでみてください。5代古河公方足利義氏の息女・氏姫の法号から徳源院と称した寺の跡で、義氏の遺骸の一部が葬られたと考えられており「古河公方足利義氏墓所」として県指定史跡となっています。

①公方様の森



③徳源院跡
(県指定史跡)



【野草紹介】ヤブランは日陰でも良く育ち、徳源院跡他、各所で見られます。



②古河公方館跡
(県指定文化財)



●調べてみると面白い公方様の森 ～今も残る遺構～



空堀



←森の中心部
(1曲輪)

空堀↓

土塁



↑民家園・茶畑
(2曲輪)

虎口

←空堀→

●館のあった当時の御所沼は、復元された現在よりも大きく、水堀りとして外敵や動物の進入を防ぐ役割を果たしていました。公方様の森と民家園・茶畑のエリアはそれぞれ曲輪と言って区画が分けられていました。その様子が分かる遺構が空堀と土塁です。空堀とは文字通り空の堀のこと、土塁とは盛土をした土手のことです。城郭の周囲は複数の曲輪で形成され、曲輪の入口は虎口という狭い出入口があり、これらによって外敵からの進入に備える作りとなっています。管理棟側から空堀の園路を登って森へ入ると、園路としては丁字路となりますが、空堀の名残はそのまま南側の御所沼へと続きます。遺構を見つつ当時に思いを馳せながら散策すると、普段とはまた違った公方様の森の姿が見えてきますよ。

●先人の知恵は偉大です

●森の木陰も涼しいですが、④「旧中山家」も涼めるスポットの一つです。建物に一步入ると涼しく感じます。1674年に建てられたこの古民家は、白壁で日光を反射し、茅葺き屋根と土壁で温度と湿度を調節するとともに理にかなったつくりをしています。自然と共存する昔の人の暮らしが見て取れますね。

④旧中山家
(県指定文化財)



⑤仙人池



●趣のある仙人池

●展望デッキ近くの⑥「仙人池」は、小さな滝が落ち、周囲に松などが植えられ趣のあるつくりになっています。

滝の水は御所沼の循環水なので、池の中にはいろんな生き物もみられます。

●こんな植物もあります「ローズマリー」

●公園駐車場側の中央園路にはメリナ・メルクーリ国際賞受賞碑の隣に植えられている⑥ローズマリー。ハーブとしてお馴染みですが、この時期に綺麗な花を咲かせます。



⑥ローズマリー

●夏の公園は日陰を選んでゆったりのにんびり。古河の歴史に思いを巡らせるのもいいですね。

●暑さも和らぎ、秋が近づいています。

厳しい暑さもやっとひと段落。のんびり散策しながら、少しずつ近づいている秋を感じてください。

○ご存知ですか？秋の七草

●秋の七草について、全てご存知の方は意外と少ないのではないのでしょうか。一部を除いて、この時期の公園内で見ることができますので、ご紹介します。まずはハギ。茶畑周辺の園路脇にたくさん植えられています。万葉集で最もよく詠まれる花だそうですよ。



●ハギからさらに南へ進んで、つつじ山の野草園周辺には、丈が長く黄色い花のオミナエシが目立ちます。足元には可憐なピンクのナデシコ（カワラナデシコ）も咲いています。公園のものは花期が早く、今の時期は少なめですので、見つけにくいかも知れません。どちらも近年、減少傾向にあります。

●さらに道なりに進んでいくと、園路脇をススキが囲む通称ススキの小径へと続きます。お月見のお供えとしても使われ、まさに秋の代表的な植物ですね。日本では箱根の仙石原など、風景としても親しまれている一方で、北米では侵略的外来種とされているそうです。

■ススキもいろいろ

葉に縞が入った園芸種のタカノハススキは雪華園他で見られます。管理棟西側御所沼の石段にあるマツカサススキは希少種で、園内にはここだけです。ススキの穂とは異なり、松笠（松ぼっくり）に似た小さな穂の集まりを付けることが名前の由来です。



●葛餅の葛粉や漢方の葛根湯などで知られるクズ。つるは作業用や編んで籠にしたり、繊維を葛布として利用したりと古くから生活に密着した植物です。近年では花に含まれるイソフラボンのダイエット効果が注目され、サプリメントにもなっています。良い所しかないように見えるこのクズ、実はその繁殖力の高さと他の植物への影響から、公園でも問題となっている植物です。刈っても根が残り、翌年に繁殖してしまうため駆除が困難であり、その被害は海を越え「世界の侵略的外来種ワースト 100」に選定されているほどです。

～秋の七草の覚え方

お おみなえし(女郎花)
す すすき(芒、薄)
き ききょう(桔梗)
な なでしこ(撫子)
ふ ふじばかま(藤袴)
く くず(葛)
は はぎ(萩)

▲語呂合わせで「お好きな服は？」と覚えます。

【季節の花】9 月中頃突然顔を出す球根植物のコルチカム。花期は葉がなく、花が終わってから葉が出て、その後休眠します。



B. コスモス
(オオハルシャギク)

【季節の花】管理棟北側のコスモス畑が広がります。ここにはコキアもたくさんありますので、紅葉が楽しみです。【これもススキ?】ふさふさの穂がひと際目立つのはシロガネヨシ。別名西洋ススキ、おばけススキとも呼ばれますが、同じイネ科というだけで、実はそれほど近い種ではないんですよ。

○眩しい紅のヒガンバナ

●目洗弁天池周辺など園内各所に咲いて初秋の公園を彩るヒガンバナ。

サンスクリット語で「天界に咲く花」を意味する言葉から「曼珠沙華」とも呼ばれます。その他、地獄花、墓花、葬式花、幽霊花など地域によって 1000 種を超える異名があるそうで、その多くは不吉な名前というのも特徴です。



【補足】アメリカでは園芸用や飼料として輸入・販売が始まり、土壌流出対策として政府が配布、奨励金を出すなど、当初は積極的に植えられていましたが、制御しきれなくなった現在は「グリーンモンスター」と呼ばれるほど被害が拡大しています。

●暑さ厳しい夏が過ぎ、疲れが出るこの季節。秋の公園散策でリフレッシュしましょう！

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索

●秋の公園をレッツ・ウォーキング！

スポーツの秋。日中は運動に最適な気候です。広い公園をぐるっと回れば、結構な運動になりますよ。

●お散歩コースと距離をご案内します

●A.桃林・蓮池コース（約 1.3km）

・管理棟前から出発し、目洗い弁天池からおみたらせの清水沿いを通して中山台を通過。ブランコの木をくぐって桃林を抜け、元屋敷の四阿から蓮池を周って南へ。鯉池を横に芝生広場手前から園路に沿って孔雀小屋を曲がって管理棟へと戻って到着です。

【ちょっと一息①若杉鳥子長塚節歌碑】明治 25 年に東京に生まれ古河で育った小説家「若杉鳥子」と作家・歌人の長塚節がお互いを詠った歌が①に 2 首ずつ刻まれています。二人の切ない物語の解説も記載されていますので、ご一読を。※御影石のベンチがあり一息つけます。

●B.南コース（約 1.1km）

・管理棟前から出発し、8 月号で紹介した空堀の園路を登って公方様の森へ。森を抜け、天神橋を渡ったら南へ向かい、次は相ノ谷橋を渡ります。そのままススキの小径を抜け、園路に沿って進みます。仙人池を横目に茶畑方面へ、芋ころがし坂を登りましょう。そのまま管理棟へ戻って到着です。

【ちょっと一息②ポンプモニュメント】戦後に干拓された御所沼が平成 8 年に復元されるまでの半世紀以上の間、干拓地を水害から守ったポンプです。老朽化により役目を終えた現在は、御所沼転生の干拓史を伝える証として保存展示されています。



②ポンプモニュメント

●C.パークフロントコース（約 1km）

・管理棟前から出発し、左回りで駐車場を大きく 1 周して戻りましょう。駐車場内も歩道が整備されていて歩きやすくなっています。車の往来がありますので、横断の際はご注意くださいね。



⑥富士見塚

【ちょっと寄り道⑥富士見塚】

御所沼を復元した際の残土を積み上げてできている富士見塚は、古河公方公園のランドマークです。体力に余裕があったら是非寄り道して上からの眺めを楽しんでみてはいかがでしょうか。

【アダプト花壇】アプローチ道路の中央にある花壇は、古河市アダプトプログラム事業(まち美化プログラム)の一つで、市の支援のもと、市民(里親)が花壇など(養子=アダプト)の美化活動を行う事業です。花壇の区画に空きがありますので、興味のある方は古河市環境課(三和庁舎)までお問い合わせください。



④アダプト花壇

【香るキンモクセイ】

園内の各地にキンモクセイが咲いています。その特徴である香りには、リラックス効果があるそうです。個人的には子供のころにトイレの芳香剤と言えばこの香りでしたので、その印象が強いですね(笑)。園内には白い花のギンモクセイもありますので、探してみてください。

⑤キンモクセイ

【ちょっと一息③こぶし野のベンチ】③にあるベンチは少し高台からこぶし野を見下ろせます。その先にある仙人池周辺の景色は、水辺に松や熊笹などが植栽され、趣のある雰囲気を出しています。

③ベンチからの眺め(仙人池)



●あなたのお気に入りルートは？

・A コースの途中、孔雀小屋を右へ進んで天神橋の前から B コースへ入り、そのまま管理棟前から C コースを周って公園を 1 周すると約 3.3km ほどになります。体調や気分に合わせて、また他の寄り道ルートを通ってみたりと、あなただけの気に入りルートを探してみてください。いつもの公園とは違った景色や、意外な発見があるかもしれませんよ。

●意外ととっても広い公方公園。てくてく散策しながら、魅力を再発見してみてください！

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索

●秋も深まり、色づく公園の木々・・・

徐々に木々が色づき、公園も落ち着いた雰囲気になってきました。のんびりと季節を楽しみましょう。



①イロハモミジ

●モミジとカエデ、紅葉と黄葉

●紅葉といえばモミジですね。そもそもモミジとはカエデ類の総称のことで、種類もたくさんありますが、日本の代表的な種類といえば「イロハモミジ」です。文字通り鮮やかに紅く色づいて、とても綺麗ですね。公園では目洗い弁天池の周辺や、雪華園などあちこちで見られます。日当たりなど条件によって紅葉の具合に差があるので、色味の違いも楽しめますね。お気に入りの1本を探してみるのも楽しいですよ。



②イタヤカエデ

●同じカエデ属の「イタヤカエデ」は、赤ではなく黄色に黄葉する種類です。虚空蔵様の前に1本大きなものがあります。ちなみに「カエデ」という名前は、葉の形が蛙の手に似ていることから、縮めてカエデとなったそうです。

●葉っぱは「蛙の手」だけど・・・

●カエデ属のような葉を持つ「モミジバフウ」。紅葉葉楓と書き、「楓」の字がつきますが、「フウ」という樹木の種類です。フウも漢字で「楓」と書くため、ややこしいですが、モミジとは異なります。カエデの仲間はプロペラ状の翼果を付けるのに対し、フウはトゲトゲの集合果を付けるのも特徴です。近くで見てみてください。



③モミジバフウ



【どんぐりどこかな？】
管理棟窓口で「どんぐりマップ」を配布していますので、お気軽にお声掛けください。



【松の冬支度】

松はこの時期になると、雪の重さから枝を守る「雪吊」や害虫駆除のための「こも巻き」を行います。とはいえ雪はそれほど降りませんし、伝統手法であるこも巻きも、現在はあまり効果がないとされていますので、どちらも本来の目的より、景観目的で行っています。季節の風物詩として、お楽しみください。(⑤雪華園)

●黄葉と共に増す不思議な甘い香りの正体は・・・？

●④の駐車場辺りに漂う甘い香りにお気づきでしょうか？この香りはハートの様な丸い葉が黄葉する「カツラ」から出ています。香りの原因は葉に含まれるマルトールという物質で、初めは他の有機化合物と結合した状態で存在し、黄葉が進むにつれ酵素が作用して、ブドウ糖とマルトールに分解されるため、香りが強くなっていくそうです。マルトール自体は香料や食品添加物としても一般に用いられており、カツラや松の葉に含まれる他、糖類を熱分解したとき（カラメルなど）にも生成されるそうです。カツラの香りはキャラメルに似ているとよく言われますが、似ているというよりも、同じものなんですね。



④カツラ

●紅葉で存在感を増すドウダンツツジ

●普段は生垣として駐車場周りなどで当たり前のように目にしているドウダンツツジですが、この季節は徐々に赤く染まって存在感を増してきます。特に民家園を囲んでいるものは、周囲にある常緑のオトメツバキやチャノキと相まって、より鮮やかに、景色を作り出します。



ドウダンツツジ



⑥民家園周辺

●秋には秋の、季節に応じたいろんな発見や楽しみ方で公園を満喫してください。

●季節は冬へ。静かな公園で探してみよう。

木々の葉も落ちてスッキリとした公園。静けさも相まって、鳥たちの鳴き声が響き渡ります。てくてくお散歩しながら、のんびりバードウォッチングも良いですね。

○ ①公方様の森に響くあの音

■森を歩いていると、「ココココ・・・」と、小気味よい音が聞こえてきます。アカゲラ、アオゲラなどキツツキ科の鳥が巣作りのために木をついている音です。これは「ドラミング」といい、1秒に約20回、1回毎に時速25kmで壁にぶつかる程の衝撃なんだとか。他の生き物なら耐えられないでしょうが、上手に衝撃を吸収できる体の仕組みなんだそうですよ。余談ですが、ゴリラが胸を叩くのも、同じくドラミングと呼びます。元は太鼓を叩くことの意味ですが、動物が鳴き声以外の方法で音をたてる動作全般のことを指します。



アカゲラ



②サザンカ



○ 花と鳥を同時に楽しむ

■花の少ない時期ですが、民家園をのぞいてみてください。オトメツバキの垣根の間、東側から入ると「サザンカ」が綺麗に咲いています。タイミングが合えば、花の蜜を吸いに来た「メジロ」に出会えるかもしれませんよ。スズメよりも小さく、約12cmほどの鳥ですが、比較的警戒心が薄いため、近くで観察や写真撮影がしやすい、かわいい姿をじっくり見ることができます。また、枝の上に押しあうように並んで止まる習性があることから「目白押し」という言葉の語源にもなっています。



メジロ



モズ

○ 小さなハンター「モズ」

■秋から冬にかけ、木のてっぺんで「キー、キー、チキチキチキ」と高鳴きをして縄張り争いをするモズ。スズメより若干大きい程度の、見た目もかわいい鳥ですが、タカなどの様な鋭いカギ状のくちばしを持っていて、昆虫、両生類、爬虫類の他、小型の鳥や哺乳類を捕食するため、スズメ属ながら「小さな猛禽」と呼ばれています。また捕った獲物を木の枝などに突き刺す「モズの早糞（はやにえ）」と呼ばれる行動をするのも特徴です。これは食料の少ない冬の保存食と考えられています。また、カマキリの卵と同様に早糞の位置によって、その年の積雪量が予測できるという説もあります。

○ 熊笹ではなく隈笹です

■冬になると縁が枯れるクマザサ。この縁取りが歌舞伎のメイク「隈取（くまどり）」に似ていることが名前の由来です。熊の出るような場所に生えたり、熊が食べるという理由で、他の種や本種を「熊笹」と呼ぶこともありますが、正しくは「隈笹」です。古くから生薬としても利用され、その効能から現在でもクマザサ茶などで利用されています。



④クマザサ



③メタセコイア

●この実 なんの実 不思議な実

この奇妙な形をした実は、並木道などに利用されることの多いメタセコイアの実です。直径約2cm程の大きさで、徐々に開く隙間から種子がこぼれます。このメタセコイアは、1939年に植物学者の三木茂博士が化石を発見し命名、1941年に新属として発表されました。絶滅したものと考えられていましたが、戦後になってから中国で現存が確認されたため「生きている化石」とも呼ばれます。その種子がアメリカを経由し、苗木となって日本へ渡り、博士が結成したメタセコイア保存会によって、日本各地へと広がりました。円錐の樹形と紅葉が美しく、今では全国各地でメタセコイア並木が見られるようになり、観光名所、自然景観として親しまれています。

●ちょっと寂しい冬の公園も楽しみ方はいろいろです。てくてく情報、次号もお楽しみに！